

「第10句、「獨有鯨鯢横」の「鯨鯢」についての考察」

この「鯨鯢」については「語釈」の頁（『春秋左氏傳』宣公十二年、杜預注）に用例が見えることは言及した。さらに『白氏文集』の使用語句「鯨鯢」と「吞舟」について考察すると、「0007題海圖屏風 元和己丑年作」に「鯨鯢得其便、張口欲吞舟」の句が見える。

以下、この詩の原文と書き下し文を引いてみる。

0007題海圖屏風 元和己丑年作

海圖の屏風に題す 元和己丑の年作る

海水無風時 波濤安悠悠

海水風無き時、波濤安ぞ悠悠たる

鱗介無小大 遂性各沉浮

鱗介小大と無く、性を遂げて各沉浮す

突兀海底鼈 首冠三神丘

突兀たり海底の鼈、首に三神丘を冠し

釣網不能制 其來非一秋

釣網も制する能はず、其來ること一秋に非ず

或者不量力 謂茲鼈可求

或者力を量らずして、茲鼈求む可しと謂ひ

鼈屨牽不動 綸絶沉其鈎

鼈屨牽けども動かず、綸絶えて其鈎を沈む

一鼈既頓頷 諸鼈齊掉頭

一鼈既に頷を頓れば、諸鼈齊しく頭を掉ふ

白濤與黒浪 呼吸繞咽喉

白濤と黒浪と、呼吸して咽喉を繞る

噴風激飛廉 鼓波怒陽候

風を噴きて飛廉を激し、波を鼓して陽候を怒らしむ